

ニセコ町人口ビジョン骨子（素案）

＜本資料の位置づけ＞

- 「ニセコ町人口ビジョン」の策定は、人口動態などの「客観的データ」や町民アンケート結果などに基づき、人口減少社会における町の地域課題や影響を見出すプロセス。
- 第2回ニセコ町自治創生協議会で示した「ニセコ町人口ビジョン」の輪郭（ストーリー）や人口推計結果などを踏襲した上で、客観的データ及びその結果が示している町の状況、人口推計結果などを肉付けして「ニセコ町人口ビジョン骨子」（素案）として示す。

＜特に議論いただきたい点＞

「ニセコ町人口ビジョン」を介して、人口減少社会を迎えるにあたっての町の地域課題や影響が、客観性とともに分かりやすく示されることが見込まれるか。

I. 「ニセコ町人口ビジョン」の位置づけ

まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）第 10 条に基づく「ニセコ町総合戦略」の策定にあたり、ニセコ町における人口の現状と将来の展望を「ニセコ町人口ビジョン」として提示する。

II. 「ニセコ町人口ビジョン」の特徴

<人口>

人口 5,000 人規模の町村では珍しく、近年は人口が微増傾向

【社会増】

- ・ 10 歳未満や 30～44 歳で、転入数が転出数を上回る
- ・ 20～30 代の移動（転入・転出）が特に多い

【自然減】

- ・ 死亡数が出生数を上回る
- ・ 近年は出生数が増加傾向にあり、合計特殊出生率は北海道全体を上回る（合計特殊出生率：1.45（2008～2012））

<雇用>

- ・ 従業者数は「農業・林業」と「宿泊業、飲食サービス業（観光業）」が多い
- ・ 正規職員割合が低く、完全失業者数が増加傾向

<メッセージ性>

- 全国的な人口減少が進んでいく中、ニセコ町は人口が増加傾向にある稀有な自治体。ニセコ町まちづくり基本条例が目指す「住むことが誇りに思えるまち」に向けた実践が、地方創生の最先端の取組として全国から注目を集めることにもつながる。
- 一方、全国的な人口減少が進んでいく中、将来にわたりこのまま人口増加が続いていく保証はない。このことを踏まえ、現在の人口増加傾向に満足することなく、町全体で当事者意識を持って「自治創生」に取り組む姿勢が重要。
- 将来への影響（町全体の危機感）としては、以下の点が考えられる。
 - ・（総人口が減らなくても）老年人口が増加していく可能性
 - ・ 集落単位では影響を受けてしまう可能性

Ⅲ. 人口分析結果

1. 人口の現状分析

ア 人口動向分析

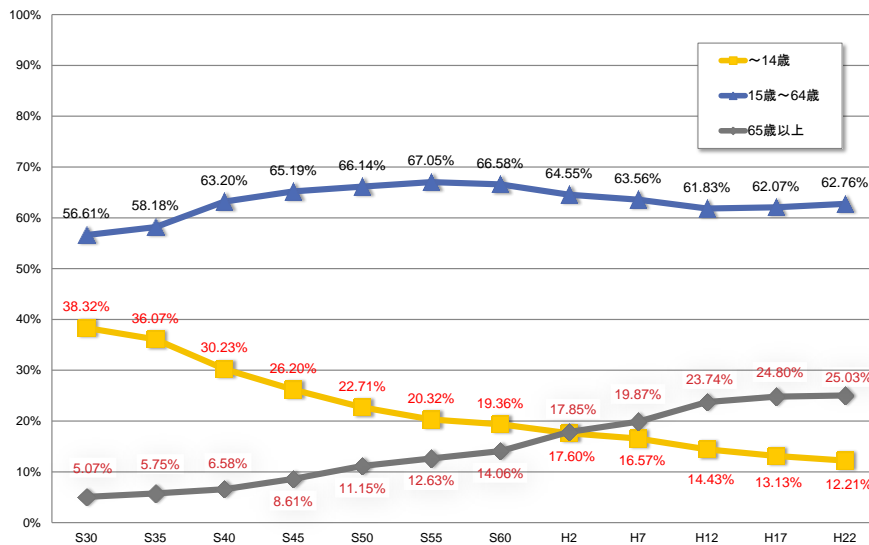
<総人口> (出所：国勢調査)

1980年(昭和55年)以降横ばいで推移してきたが、近年は増加傾向。人口が増加傾向にある稀有な自治体。



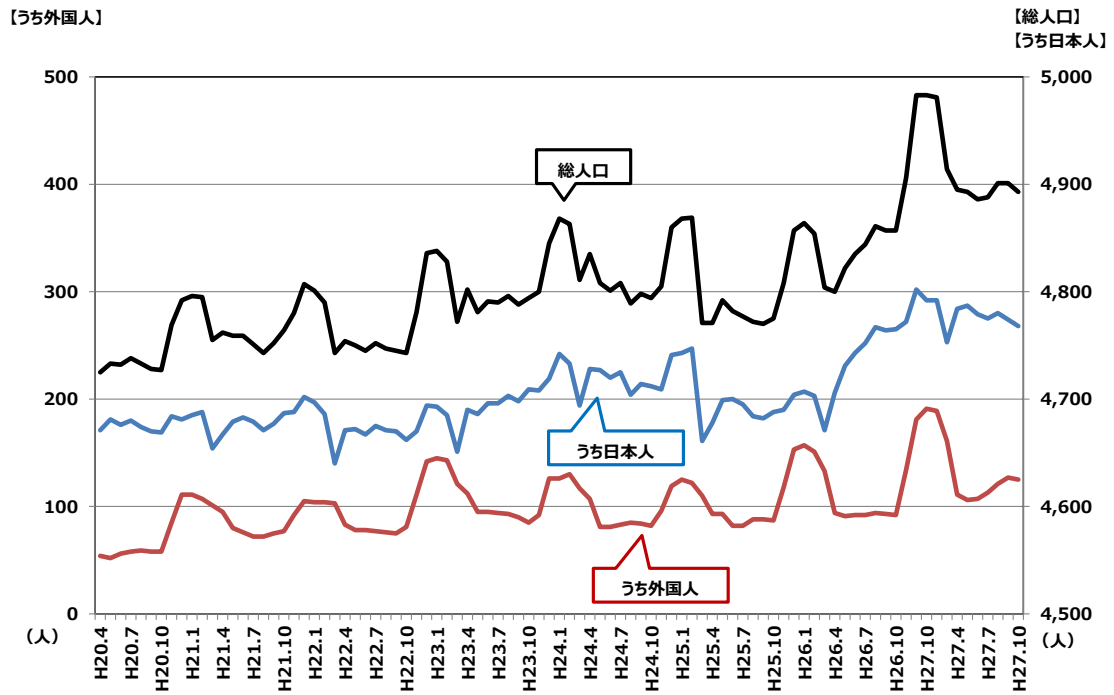
<年齢区分別人口> (出所：国勢調査)

生産年齢人口及び年少人口が減少傾向にある一方、老年人口は増加している。将来は、高齢者の増加に伴い、除雪・買い物・医療などの課題が顕在化すること考えられる。



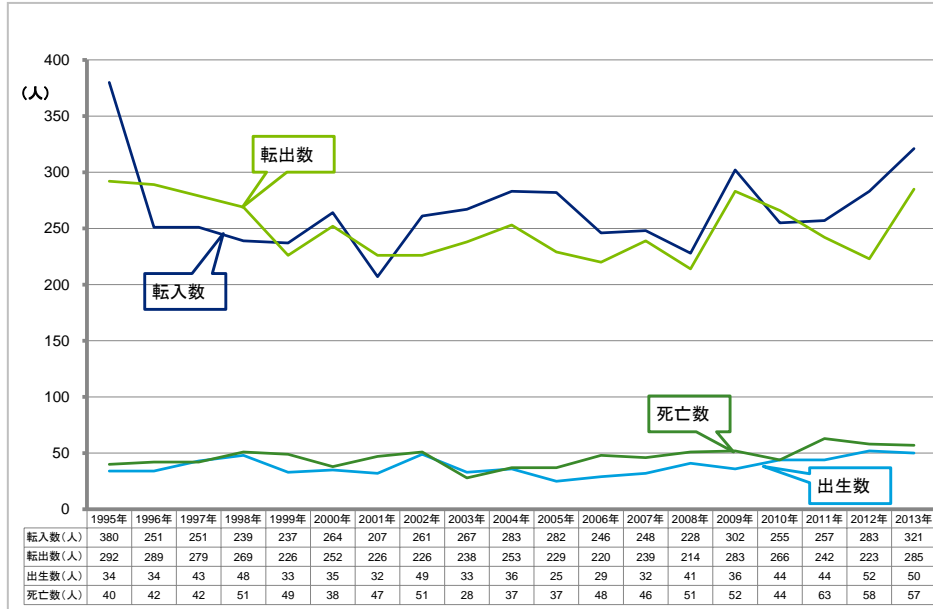
<月別総人口> (出所：住民基本台帳)

冬季(12月～2月)に外国人登録者数は大幅に増加しており、ニセコ町の総人口も、冬季の増加を含めて、近年微増傾向を維持している。



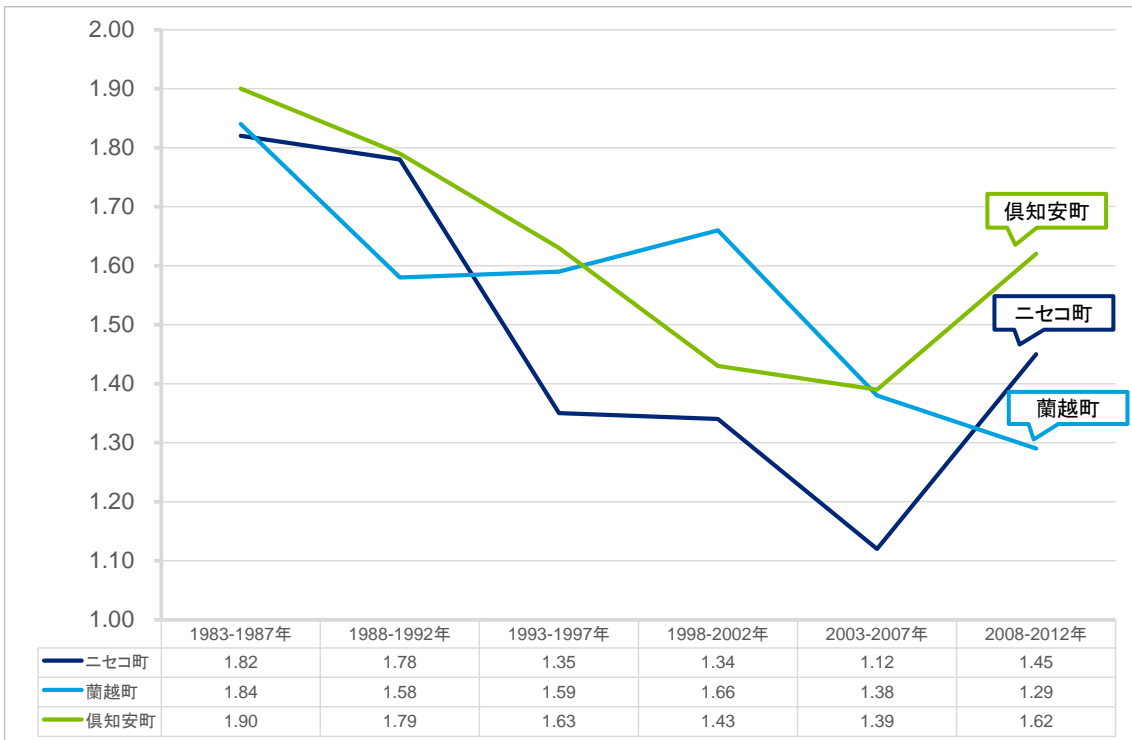
<転入数・転出数、出生数・死亡数> (出所：住民基本台帳)

ニセコ町の人口増加は、社会増（転入数が転出数を上回る）によるもの。
出生数が死亡数を下回る自然減の傾向にあるが、出生数は増加傾向にある。



<合計特殊出生率> (出所：人口動態調査)

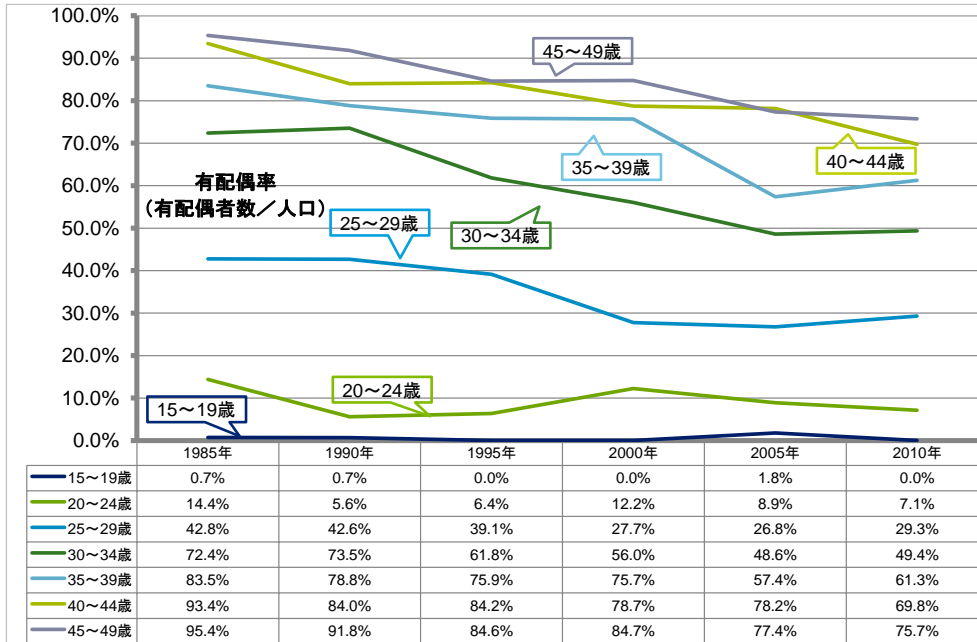
近年増加に転じた。なお、北海道や札幌市よりも高水準にある。



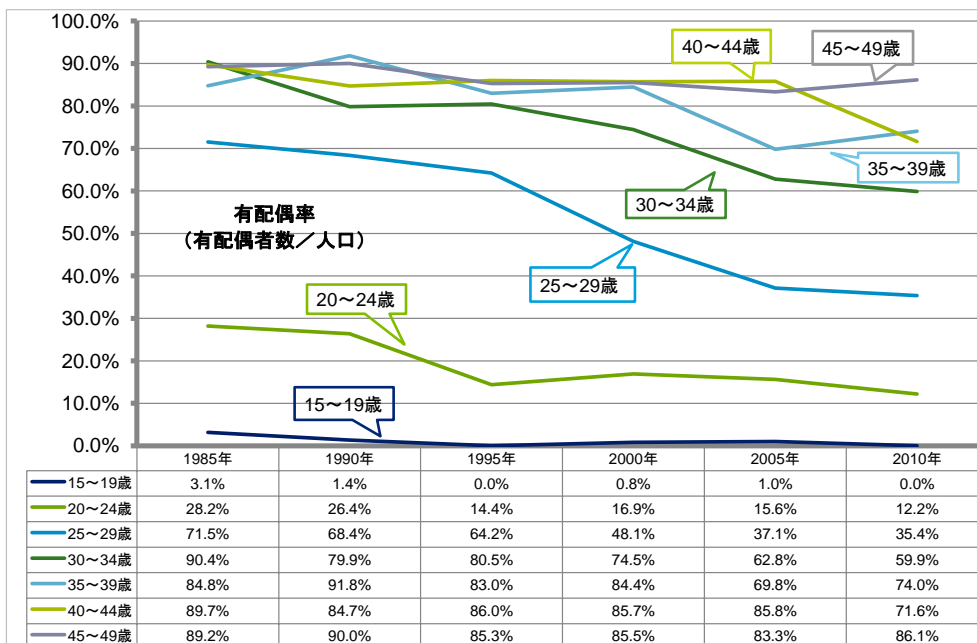
<有配偶率> (出所：国勢調査)

全国や北海道よりは高い水準であるものの、減少傾向にある。

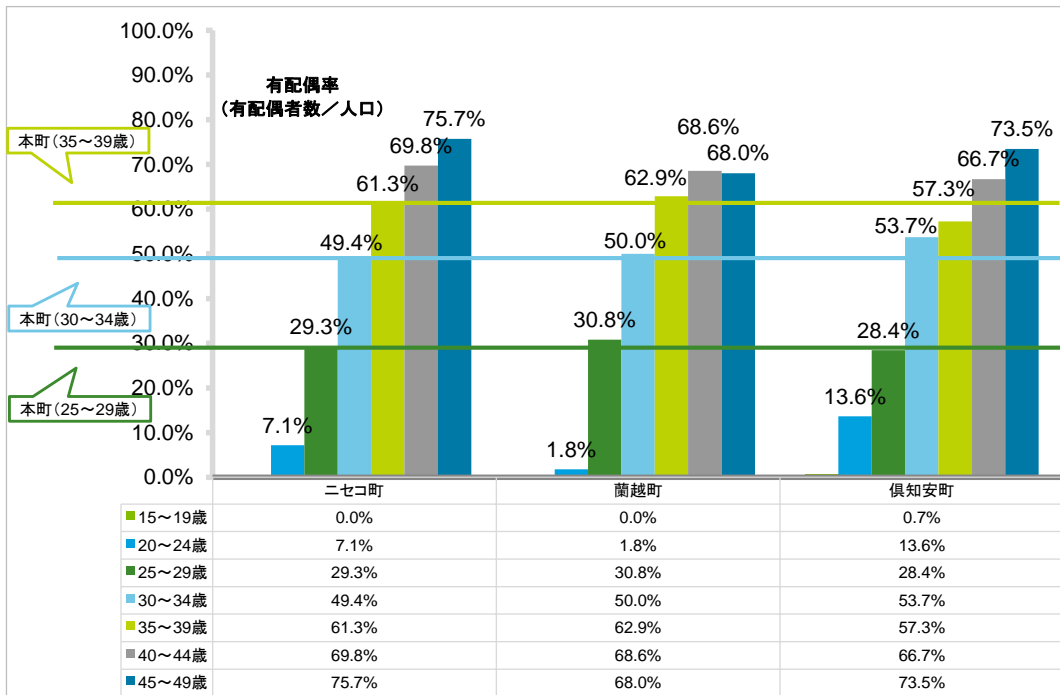
(男性)



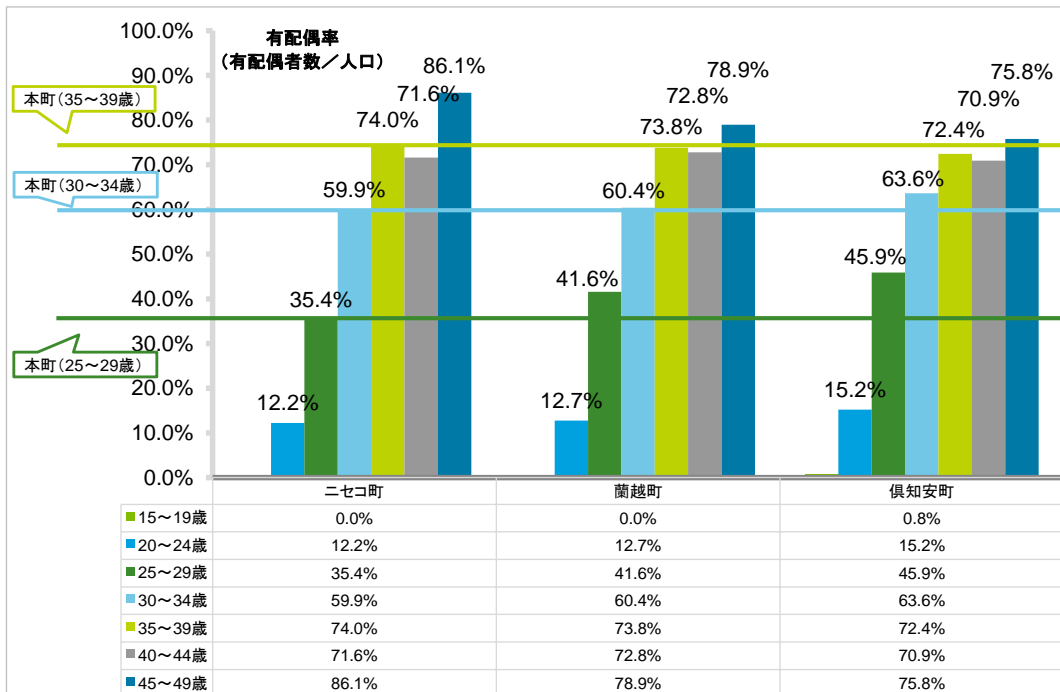
(女性)



(男性)



(女性)

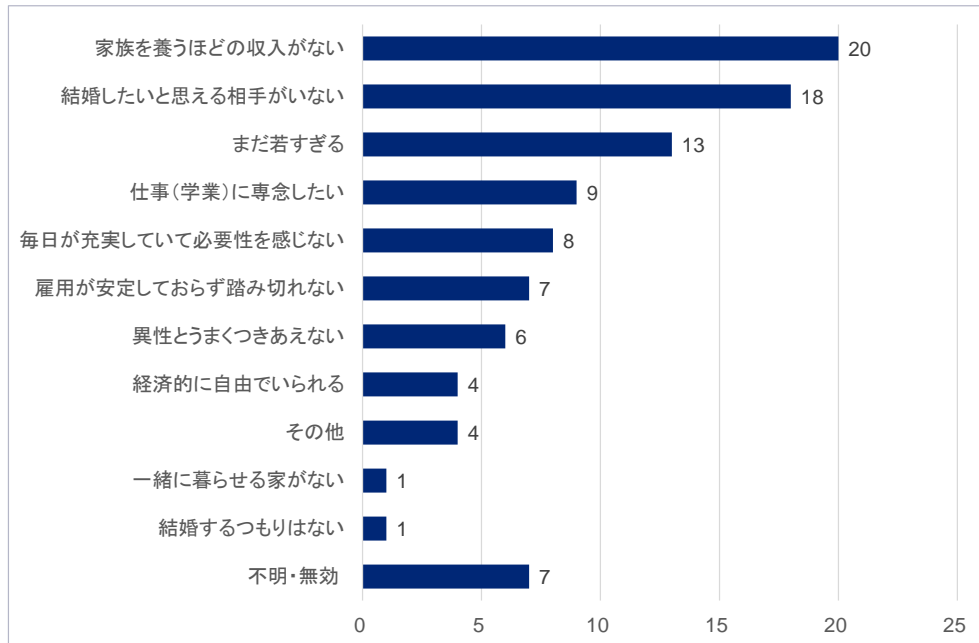


<未婚の理由>

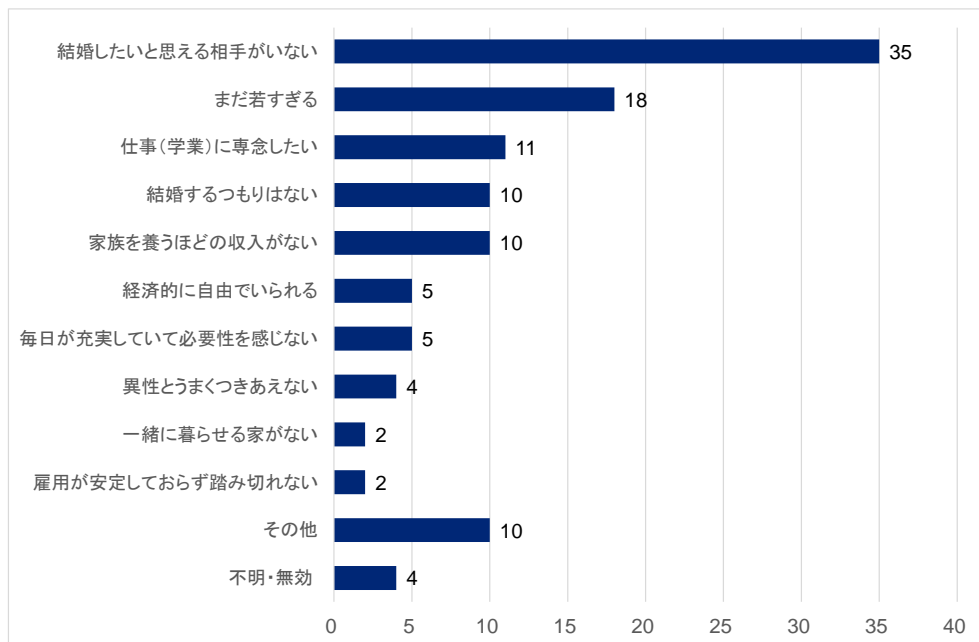
(出所：ニセコ町民アンケート(平成27年8月実施))

「結婚したいと思える相手がいない」が多く、特に男性は「家族を養うほどの収入がない」も多い。

(男性)



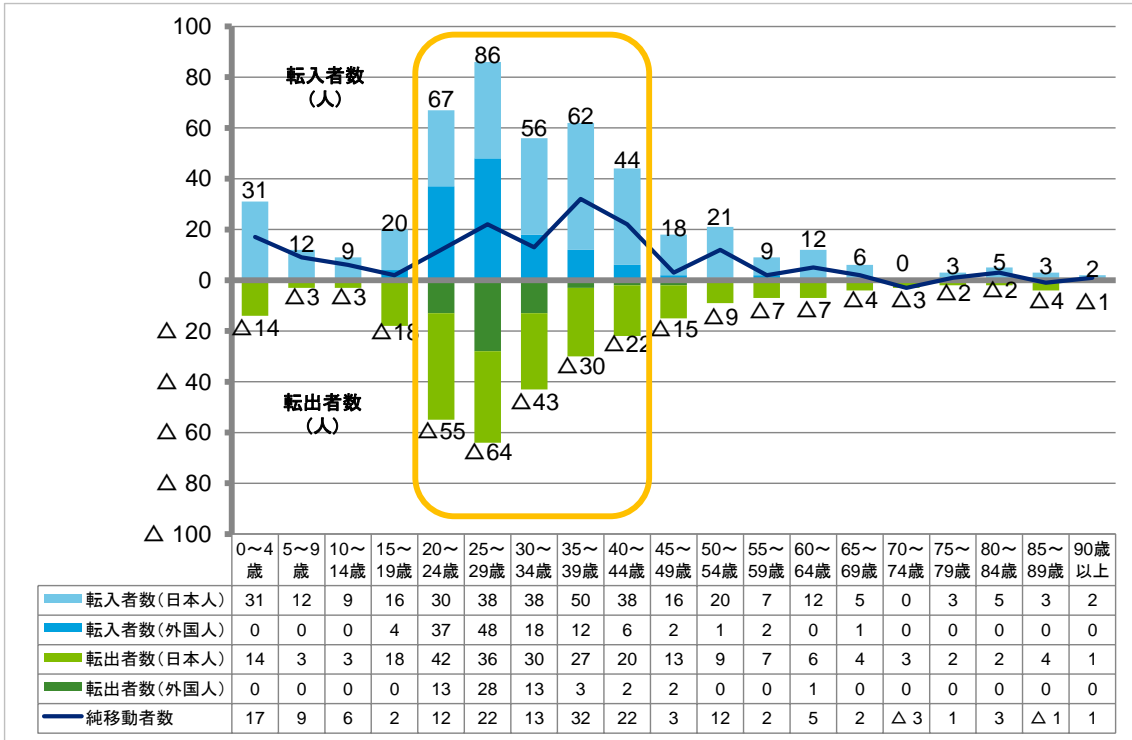
(女性)



＜転入数・転出数（外国人含む）＞ （出所：住民基本台帳移動報告（2014年））

転入数、転出数とも200～300人規模の増減を繰り返している中、日本人・外国人とも、転入数が転出数を上回る社会増の傾向にある。

（転入数・転出数）

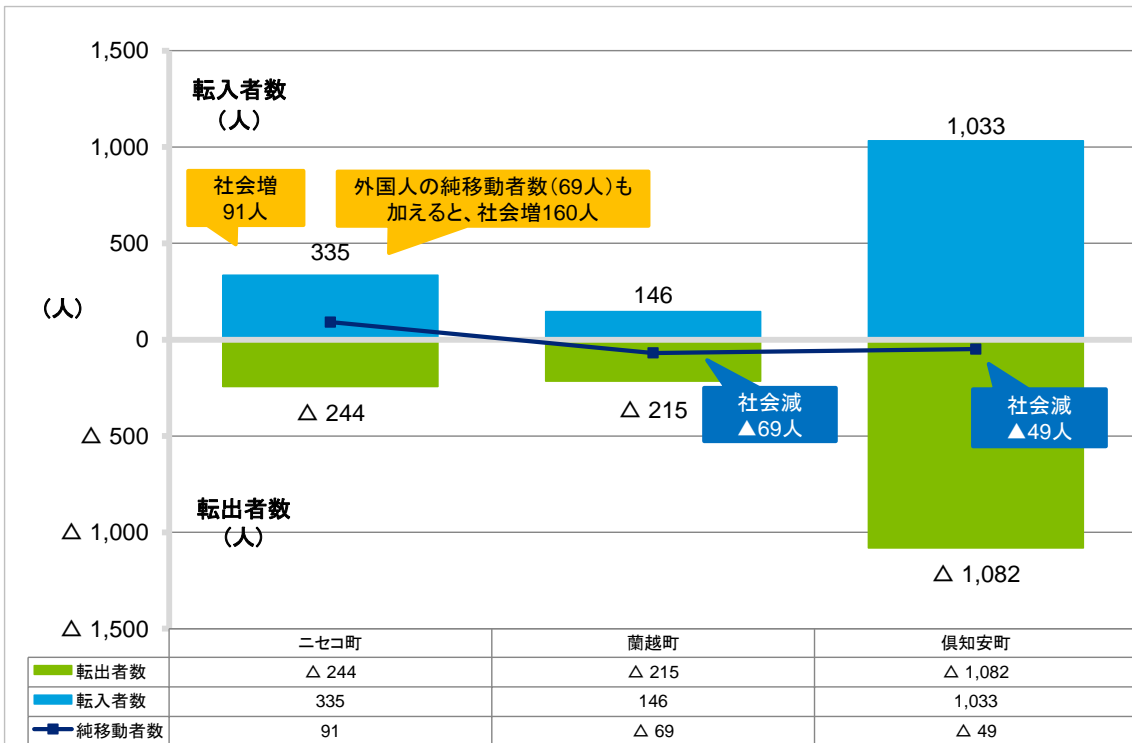


課題： 若年層の人口流出（※流出・流入は同規模）

<転入数・転出数・純移動者数の比較（日本人のみ）>

（出所：住民基本台帳移動報告（2014年））

蘭越町、倶知安町が社会減であるのに対して、ニセコ町は社会増である。

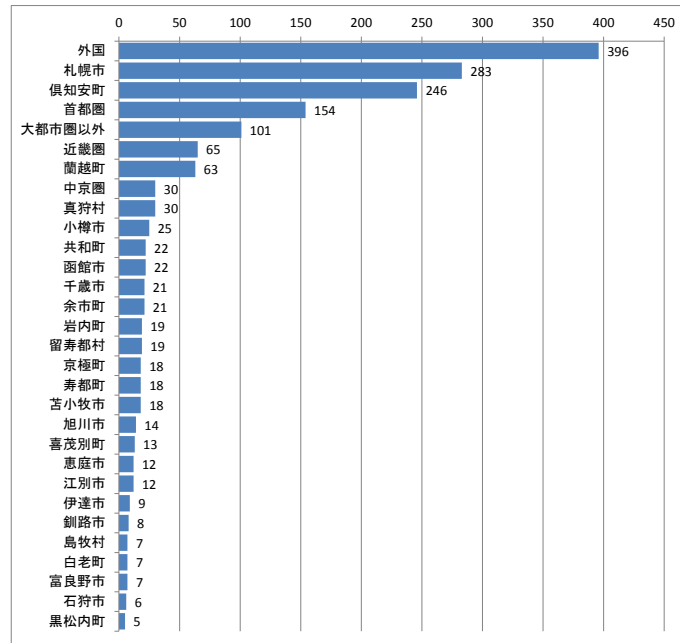


<転入元・転出先>

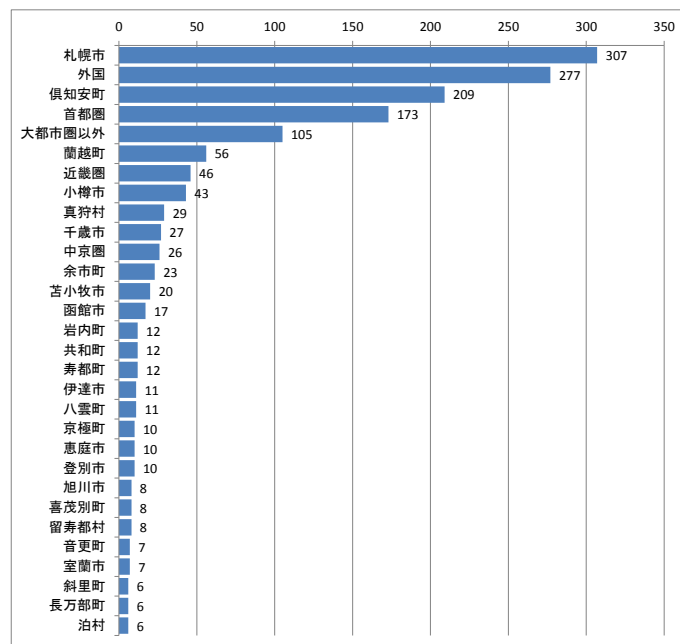
(出所：ニセコ町「戦略的住まい・まちづくり」政策検討会議平成26年度中間報告書
(平成27年3月)、平成21年度～25年度の5年間計・住基台帳)

倶知安町(+37人)や海外(+119人)は転入超過であるのに対して、首都圏(▲19人)や札幌市(▲24人)は転出超過である。

(転入元)



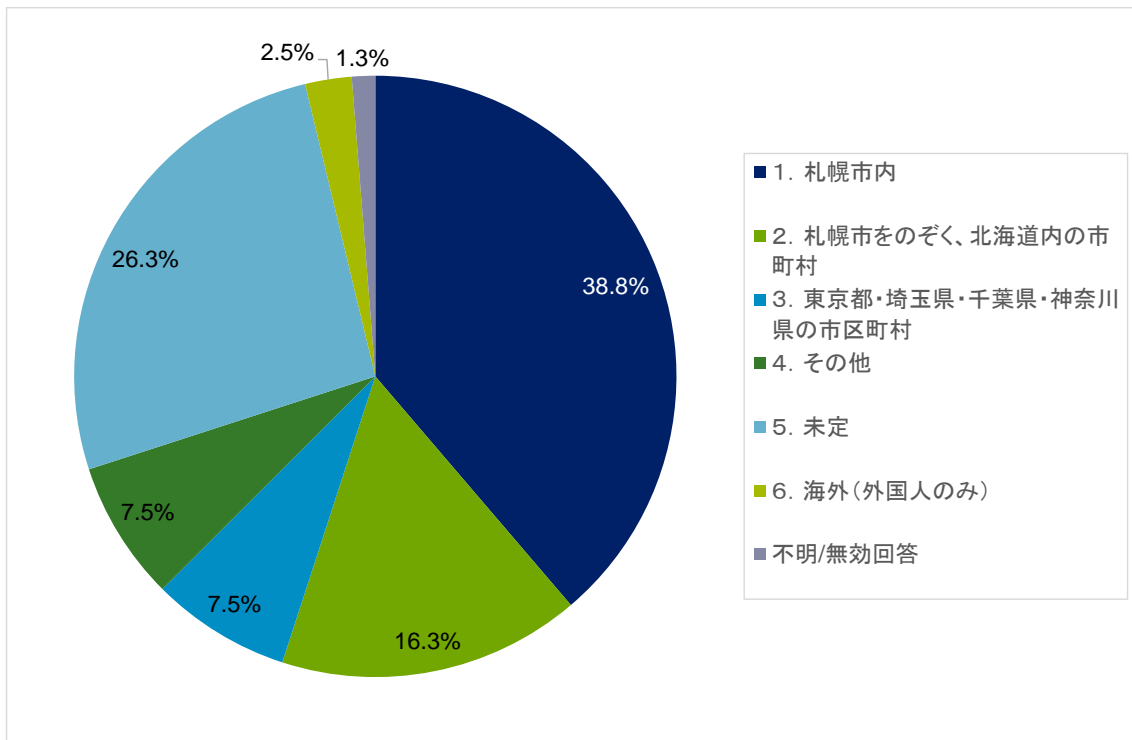
(転出先)



<希望転出先（アンケート）>

（出所：ニセコ町民アンケート（平成27年8月実施））

転出を考えている町民のうち半分以上が道内、うち約4割が札幌市への転出を考えている。

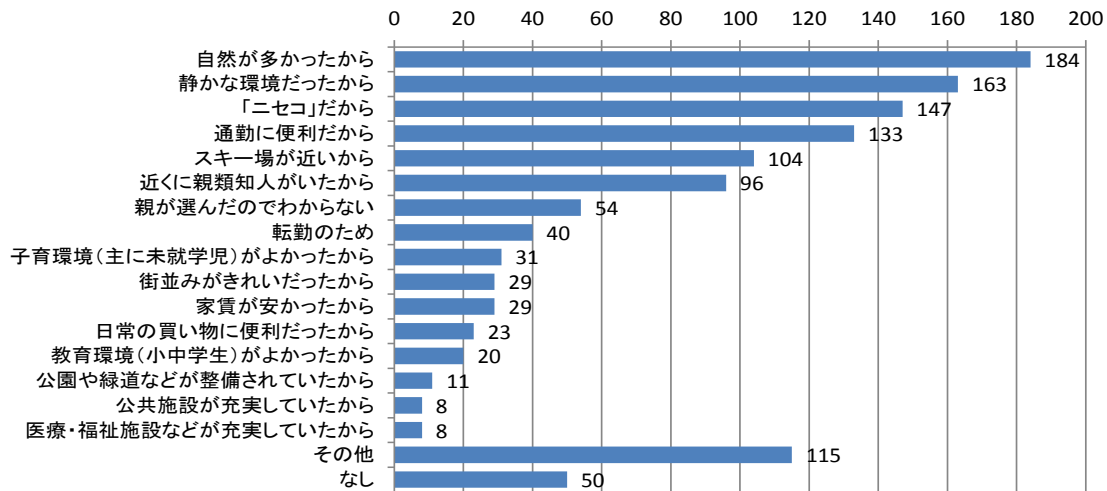


課題： 対都市圏（首都圏・札幌市）で人口流出超過

<ニセコ町を選んだ理由（アンケート）>

（出所：ニセコ町「戦略的住まい・まちづくり」政策検討会議平成26年度中間報告書（平成27年3月））

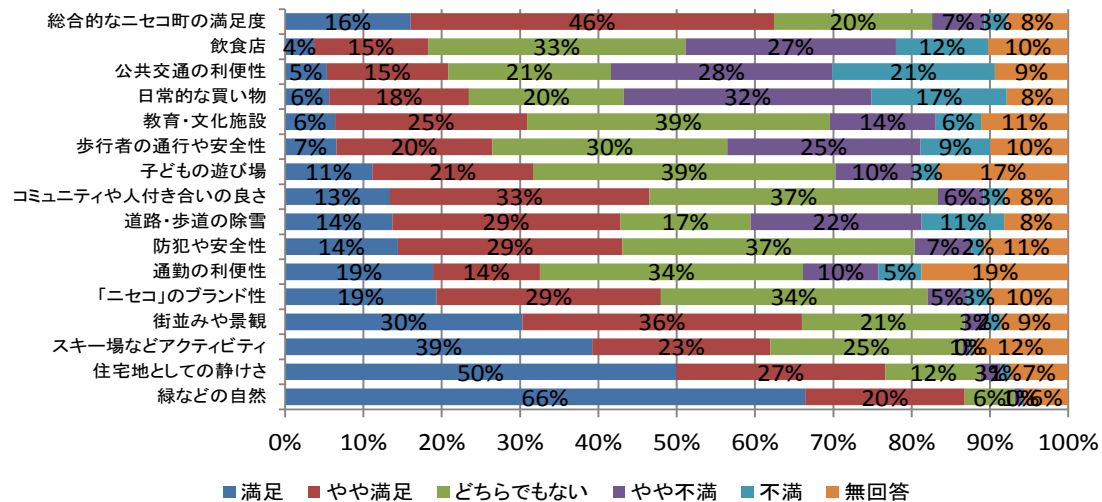
居住者は「豊かな自然環境」や「ブランドカ（ニセコだから）」に惹かれている。



<ニセコ町に居住しての満足度（アンケート）>

（出所：ニセコ町「戦略的住まい・まちづくり」政策検討会議平成26年度中間報告書（平成27年3月））

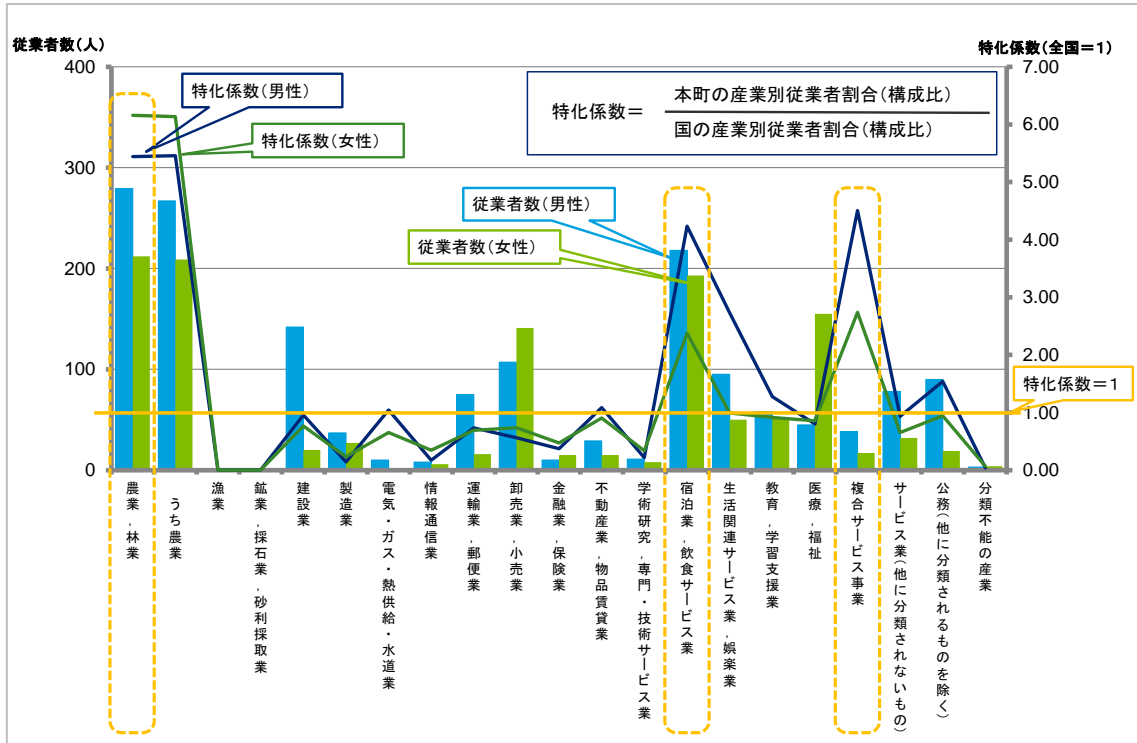
居住者の満足度が特に低いのは「飲食店」「買い物」「公共交通」である。



<産業別従業者数> (出所：国勢調査(2010年))

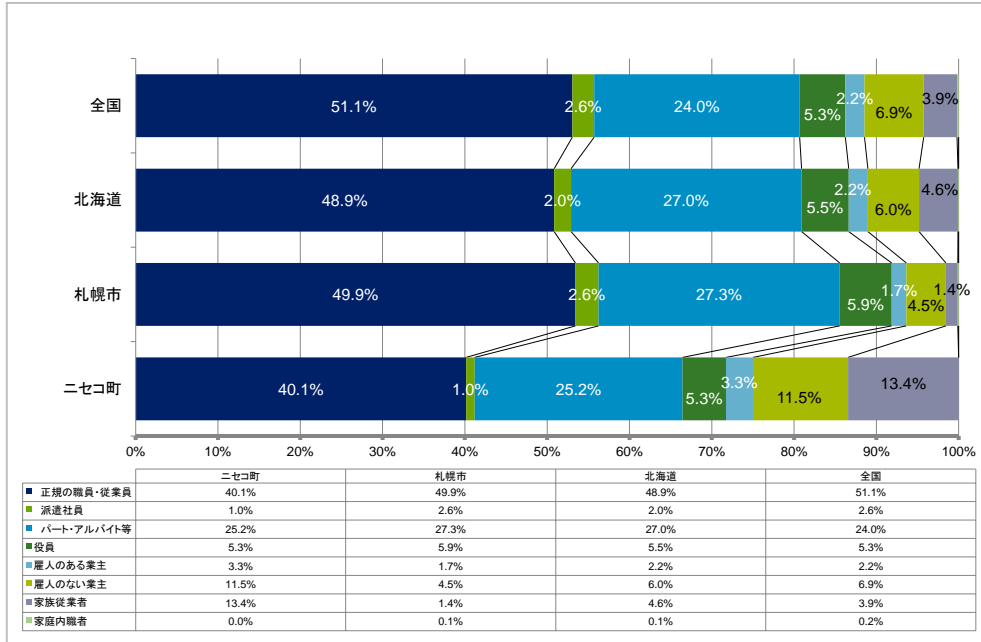
「農業・林業」、「宿泊業・飲食サービス業」、「卸売業・小売業」が多い。

特化係数では、「複合サービス事業」(郵便局や協同組合)も多い。



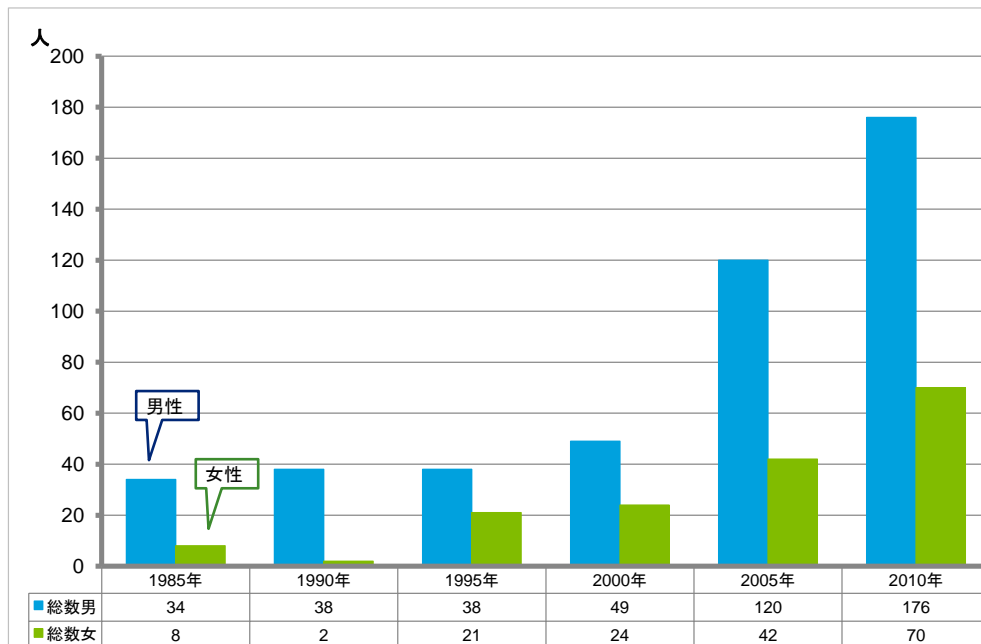
<正規職員割合> (出所：国勢調査(2010年))

正規職員割合自体は全国や北海道よりも低いものの、家族従業者（農家や個人商店などで、農仕事や店の仕事などを手伝っている家族）や家庭内職者（家庭内で賃仕事（家庭内職）をしている人）が多い。



<完全失業者数> (出所：国勢調査)

増加傾向にあり、特に2000年以降、特に男性が顕著である。



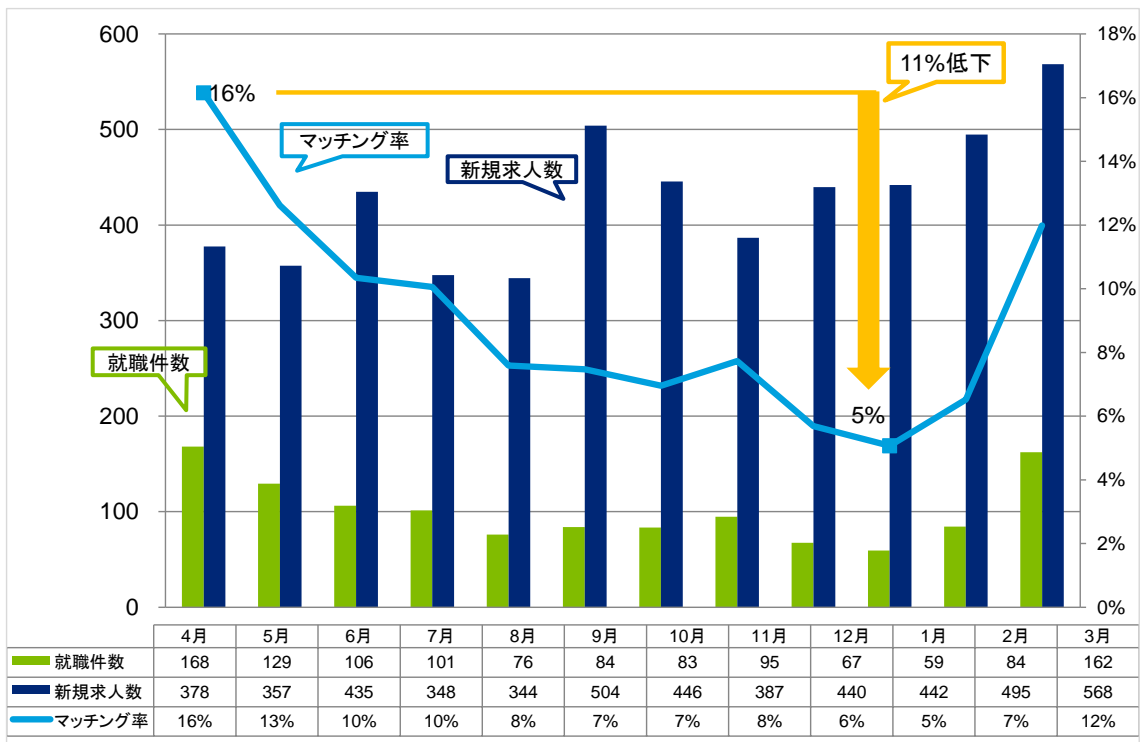
課題： 完全失業者数の増加傾向

<新規求人数・就職件数・マッチング率>

(出所:管内の雇用失業情勢(ハローワーク岩内)(平成24年4月~平成27年3月))

冬季シーズン前に新規求人数が増加するが、就職件数は連動して増加せず、マッチング率は冬季に最も低くなる。

※マッチング率 = 就職件数 / 月間有効求人数 (「前月から繰越された「有効求人数」と当月の「新規求人数」の合計数)

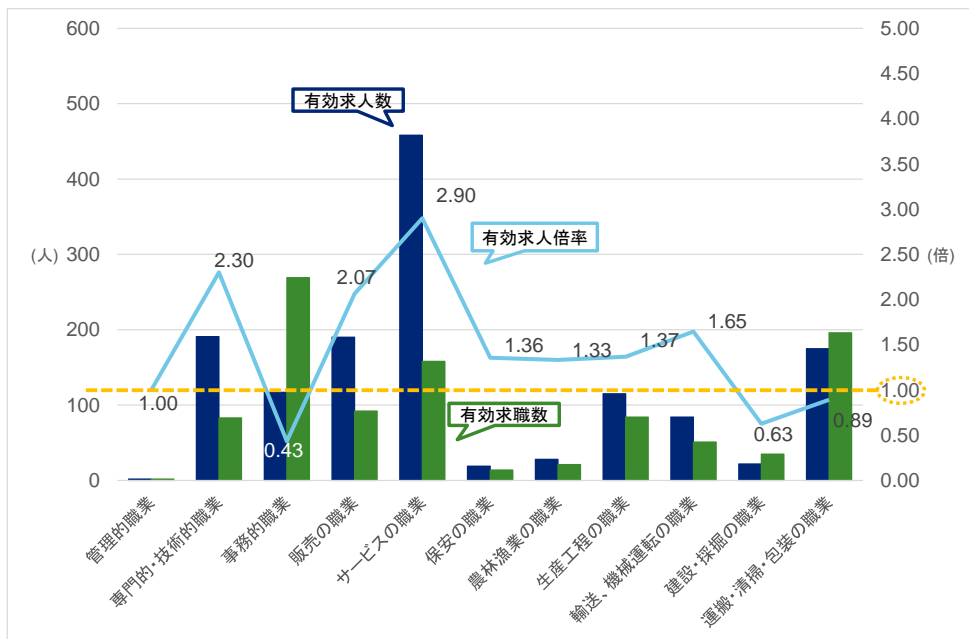


<業種別の有効求人数・有効求職数・有効求人倍率>

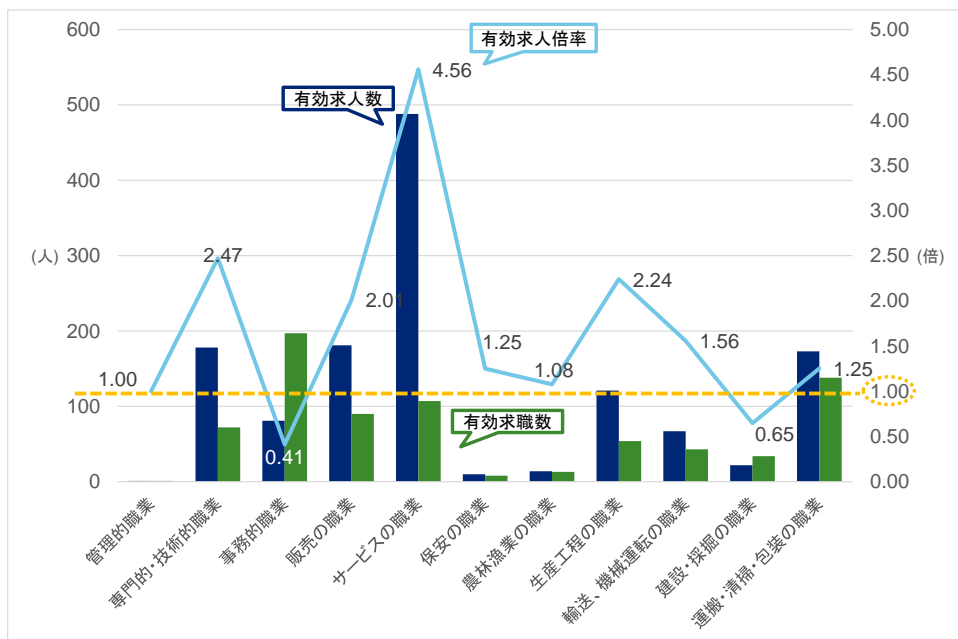
(出所：管内の雇用失業情勢（ハローワーク岩内）)

冬季は、特に「サービスの職業」（家庭生活支援サービスの職業、介護サービスの職業、保健医療サービスの職業、生活衛生サービスの職業、飲食物調理の職業、接客・給仕の職業、居住施設・ビル等の管理の職業など）の有効求人倍率が上がっており、全体のマッチング率を引き下げている。

(春季：平成 27 年 4 月)



(冬季：平成 27 年 1 月)

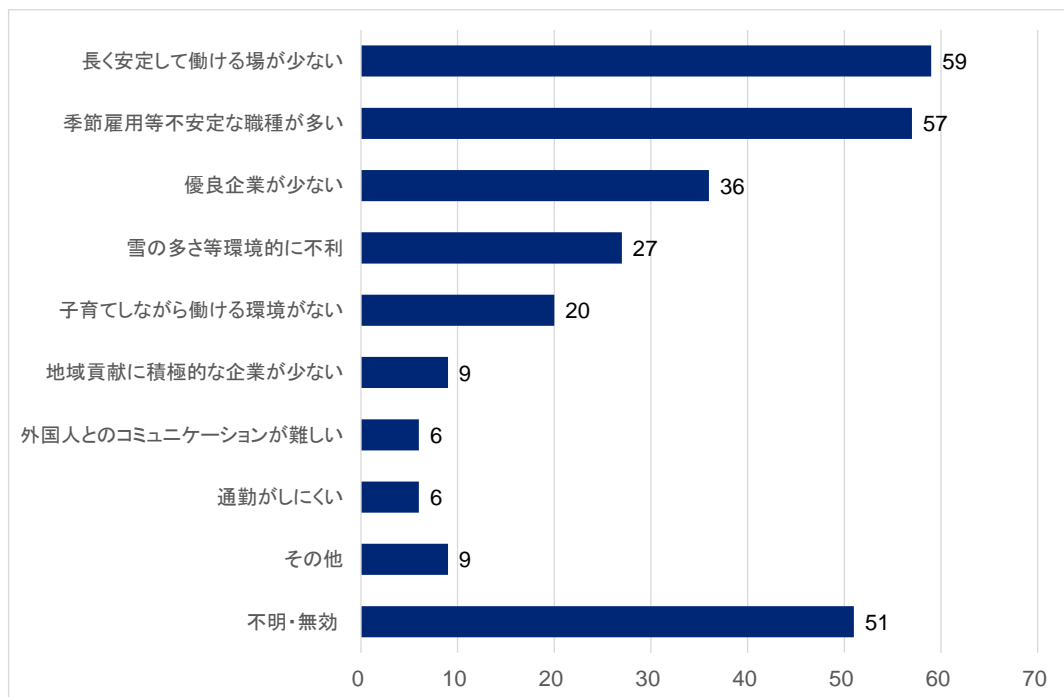


<働きにくい理由（アンケート）>

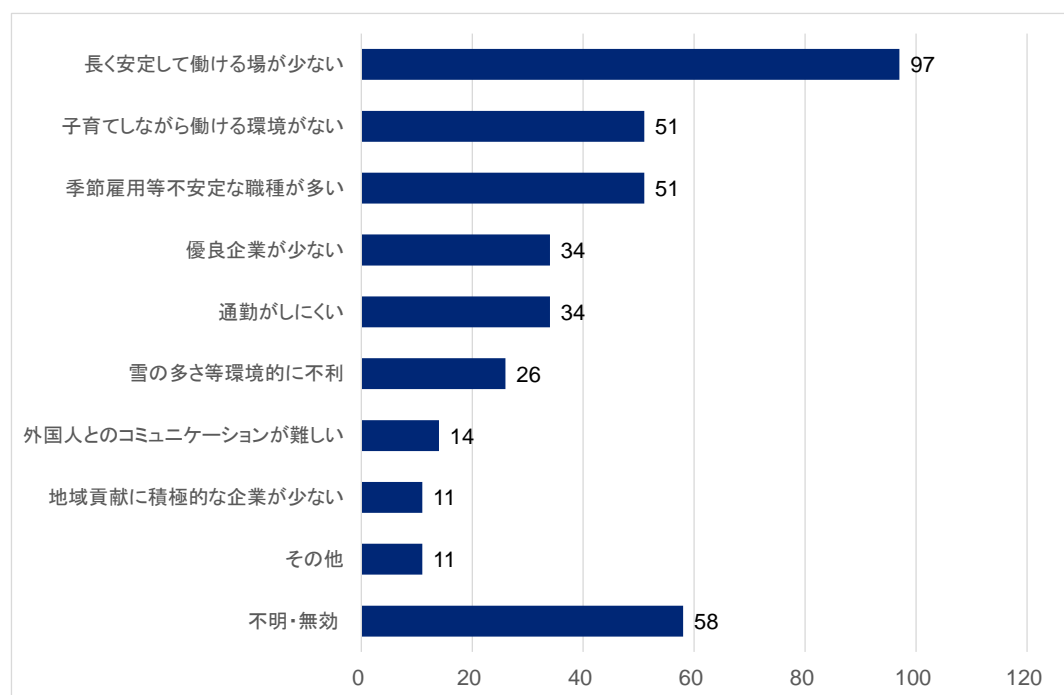
（出所：ニセコ町民アンケート（平成27年8月実施））

「長く安定して働ける場が少ない」や「季節雇用等不安定な職種が多い」が多く、特に女性は「子育てしながら働ける環境がない」も多い。

（男性）



（女性）

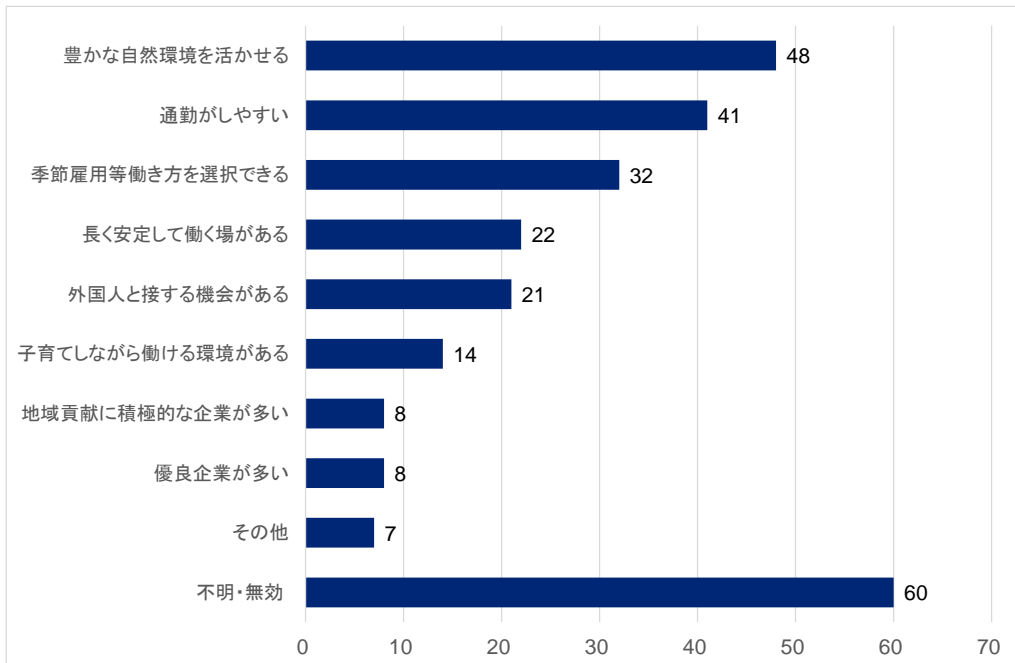


<働きやすい理由（アンケート）>

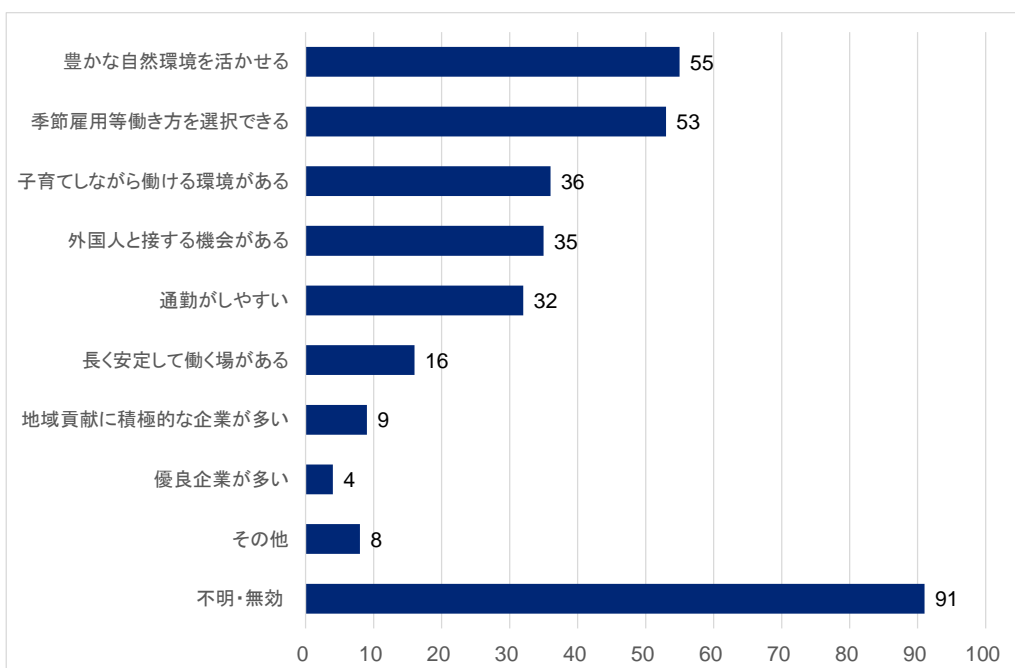
（出所：ニセコ町民アンケート（平成27年8月実施））

特に女性で「季節雇用等働き方を選択できる」、「子育てしながら働ける環境がある」が多く、季節雇用や子育てしながら働ける環境については、働きやすさ・働きにくさの両面から捉えられている。

（男性）



（女性）



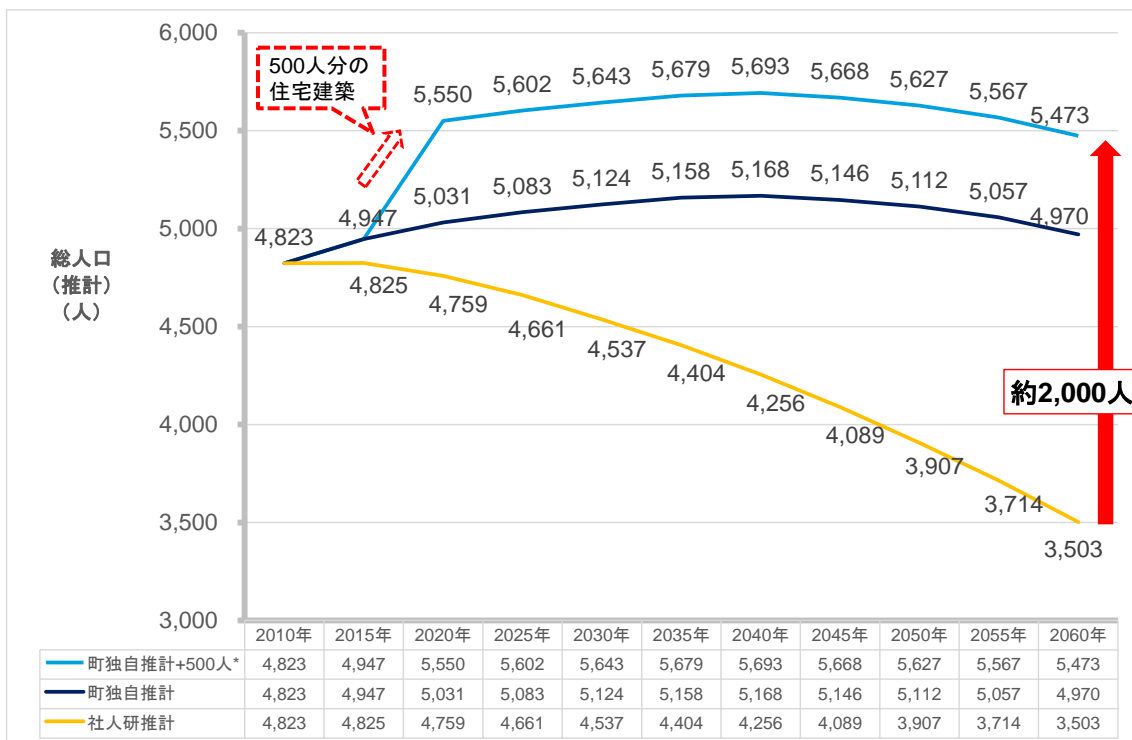
イ 将来人口の推計と分析

＜出生率や移動率等について仮定値を変えた総人口推計の比較＞

町独自推計によれば、合計特殊出生率（2008年～2012年：1.45）、移動率とも現在の水準を保つと、2060年に2010年と同等の人口で推移することが推計できる。

また、2020年度にかけての住宅建設計画を考慮した推計方法として、例えば、「2020年度にかけての5年間で500人分の住宅を建設し、全て入居する」を仮定することも考えられる。

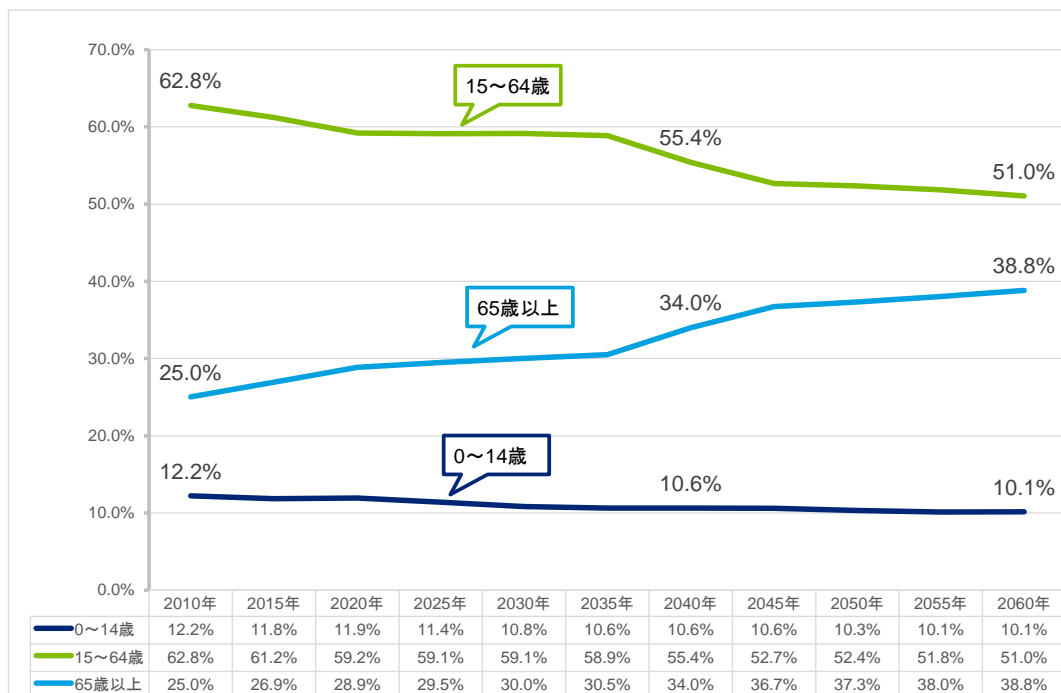
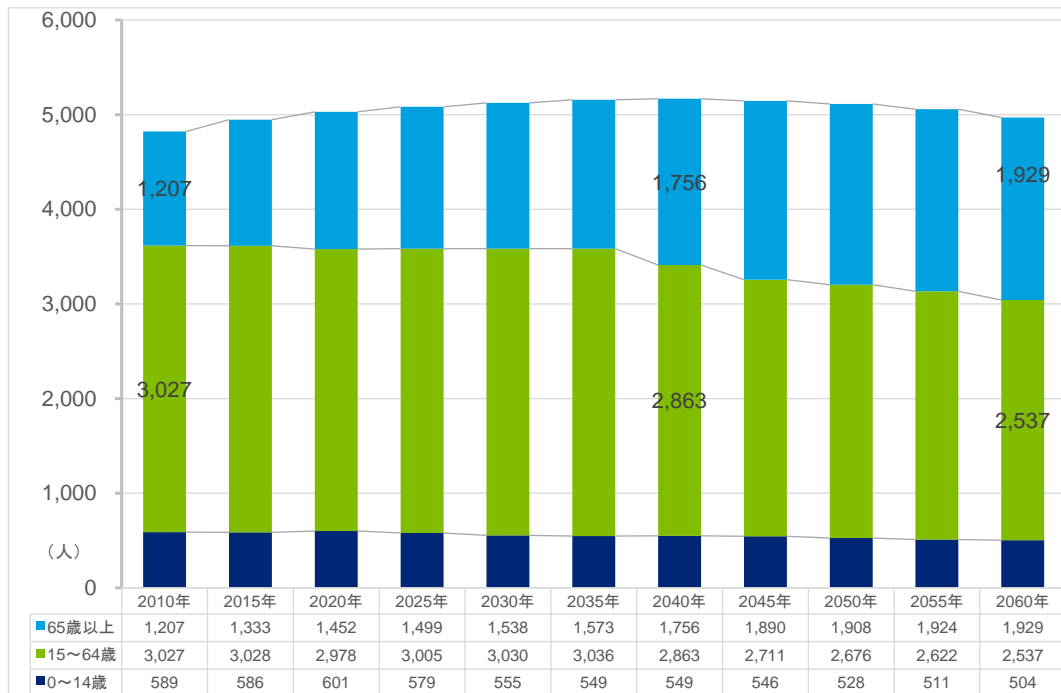
なお、将来人口推計は、北海道新幹線の新函館北斗・札幌間の開業（平成42年度末（2030年度末）予定）などの動向などを踏まえて、必要に応じて、見直しを検討することが適当である。

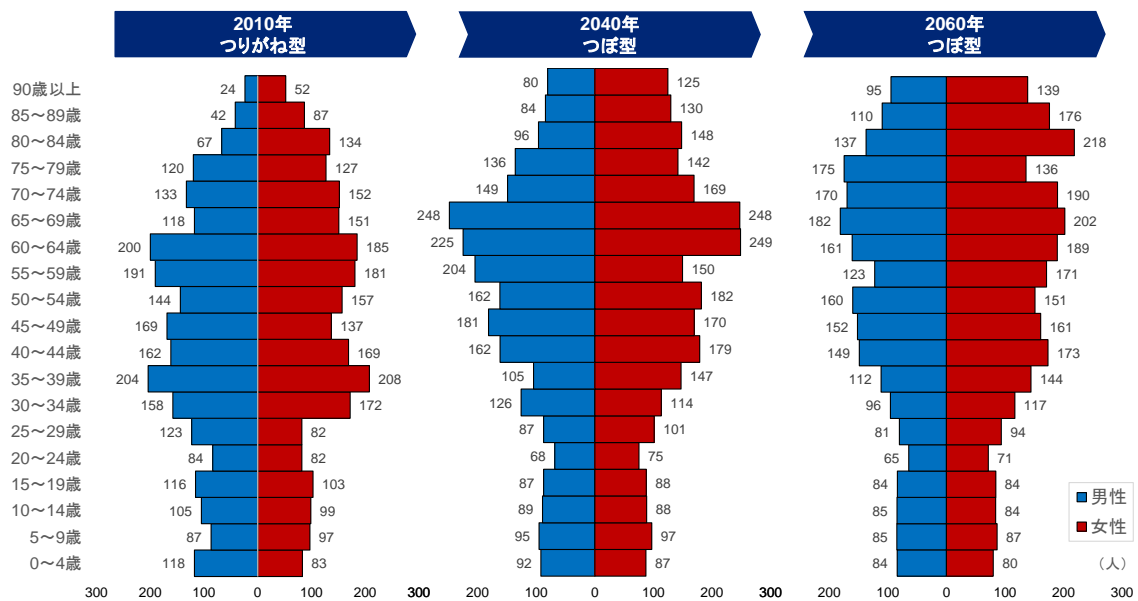


（注）端数処理のため、総人口（推計値）と年齢3区分別人口（推計値）の合算とが一致しないことがある。

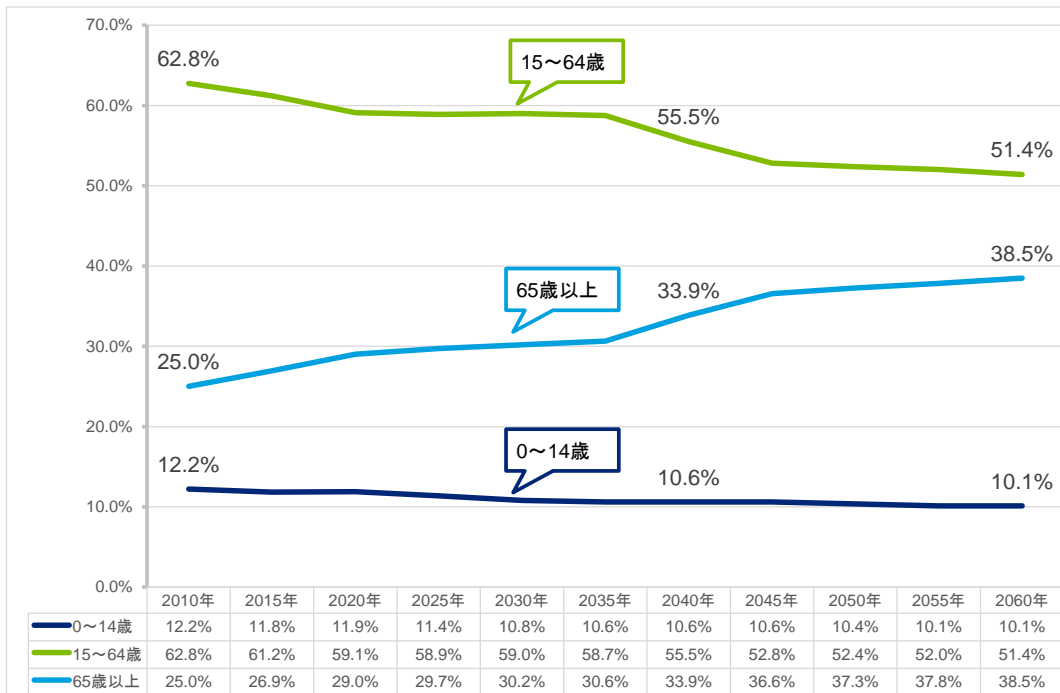
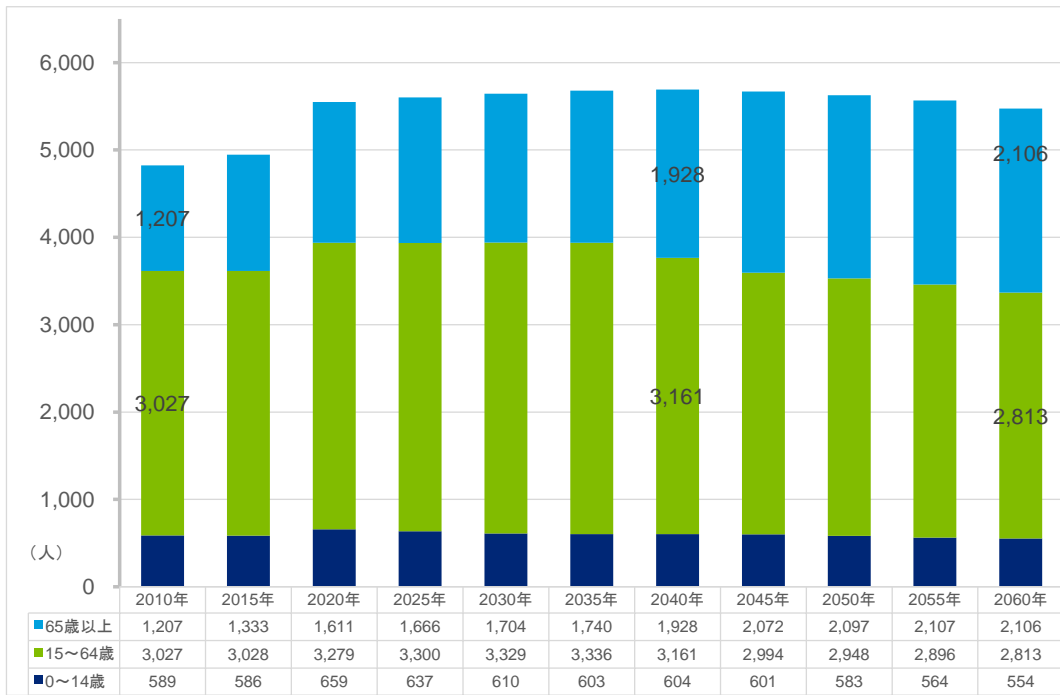
＜出生率や移動率等について仮定値を変えた総人口推計に対応した年齢区分別人口＞
 合計特殊出生率、移動率とも現在の水準を保ち、2060年に2010年と同等の人口で推移する場合においても、老年人口は着実に増加していくことが推計できる。

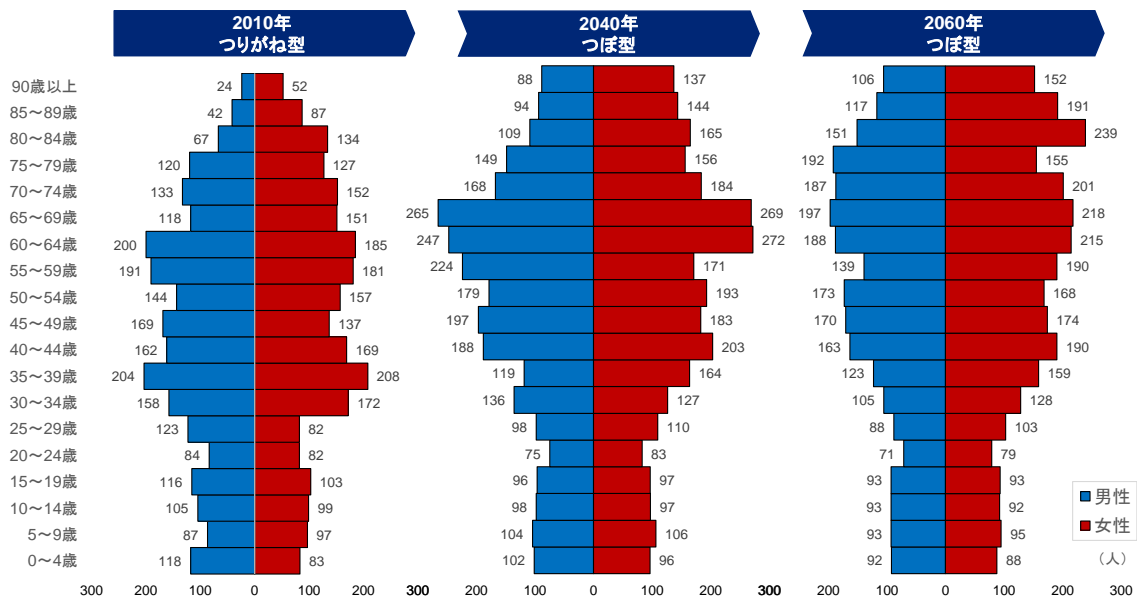
(住宅建設計画を考慮しない場合)





(住宅建設計画を考慮した場合)

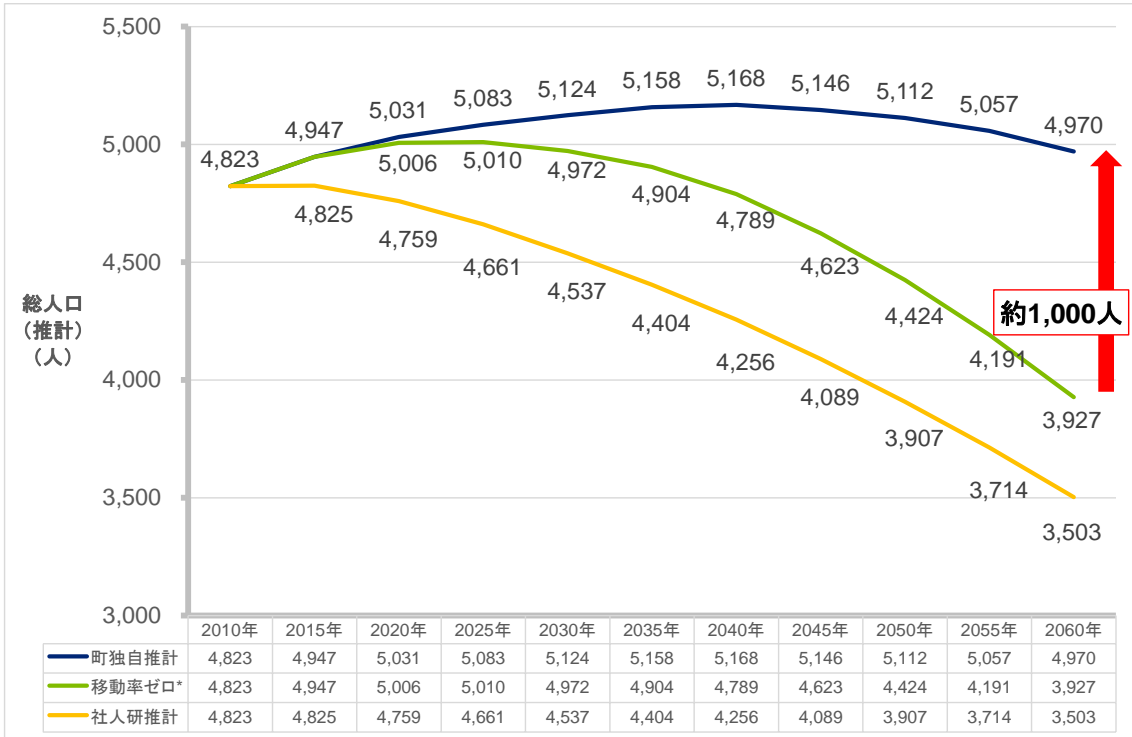




影響： 老年人口の増加

<将来人口に及ぼす自然増減、社会増減の影響度の分析>

合計特殊出生率、移動率とも現在の水準を保つ町独自推計に対して、2060年にかけて移動率をゼロとなる仮定をすると、約1,000人の差が見込まれる推計結果が得られており、ニセコ町の人口は、自然増減よりも、社会増減による影響をより強く受ける。

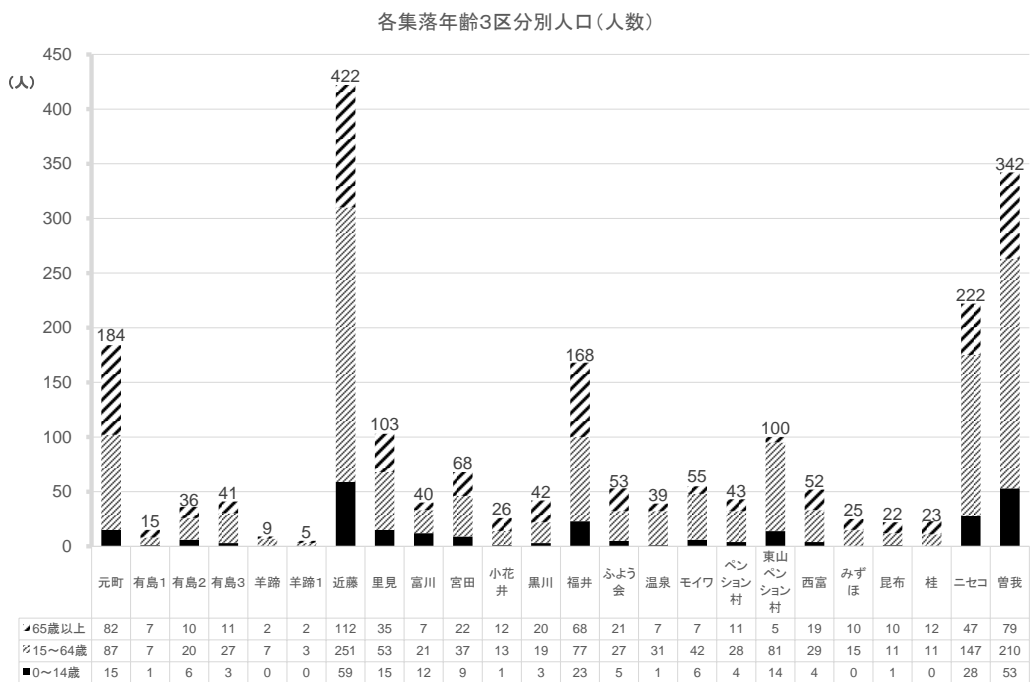
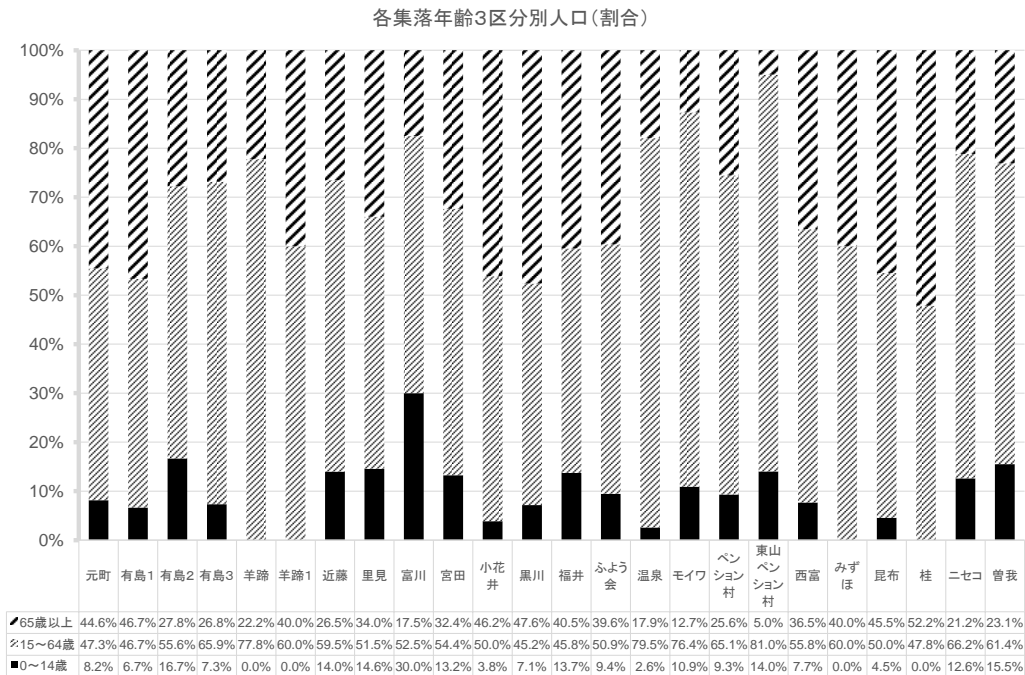


ウ 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察

＜地域住民の生活や地域経済、地方行政に与える影響についての分析・考察＞

(出所：北海道集落实態調査)

集落別に年齢3区分別人口を分析すると、超高齢社会を迎えている集落が多数存在しており、わずかな人口減少でも影響を受けるおそれも考えられる。



※超高齢社会：65歳以上が21%超の集落（WHO（世界保健機構）の定義）

※集落：「北海道集落实態調査」の定義に基づく集落を抽出。同調査では、一定の土地に数戸以上の社会的まとまりが形成された、住民生活の基本的な地域単位であり、市町村行政において扱う行政区の基本単位を「集落」としている。

影響： 集落単位では影響を受けてしまう可能性

2. 人口の将来展望

★【ニセコ町人口ビジョンのまとめやニセコ町総合戦略とのつながりなどを今後作文】

ア 将来展望に必要な調査・分析

イ 目指すべき将来の方向

ウ 人口の将来展望

自然増減

社会増減